発掘だより　No. 46

令和３年１月31日(日)発行

豊川市教育委員会生涯学習課
〒441-0292 豊川市赤坂町松本250番地(豊川市音羽庁舎内)
TEL:0533-88-8035　FAX:0533-88-8038

令和２年度史跡三河国分寺跡の発掘調査について

１　はじめに

史跡三河国分寺跡については、昭和30年代より伽藍(がらん)地内[1]にてたびたび発掘調査を行ってきました。これまでの一連の調査により、金堂跡(こんどうあと)や講堂跡(こうどうあと)、南大門跡(なんだいもんあと)など主要伽藍の広がりについてはおおむね把握できていますが、将来的な史跡整備事業の実施にあたり、史跡内の状況をより詳細に明らかにする必要があり、豊川市教育委員会では令和元年度より継続的な発掘調査に取り掛かりました。昨年度の発掘調査では、金堂跡の基壇規模[2]が明らかになるとともに、その基壇(きだん)には木製基壇外装[3]が採用されていたことが判明したほか、講堂跡の北側では僧房跡(そうぼうあと)と推定される大型の掘立柱建物跡[4]を確認しました。

令和２年度の発掘調査は、過去の調査にて課題となった箇所の確認のほか、塔跡北側に広がる空閑地に調査区を設定しました(図１)。調査は令和２年９月から12月にかけて実施し、次年度以降の調査につながる大きな成果を得るとともに、新たな課題も浮かび上がりました。

２　三河国分寺跡の伽藍配置

これまでの発掘調査成果により、三河国分寺跡は東西南北約180m四方の寺域を有し、この周囲は築地塀(ついじべい)[5]により区画されていたことが明らかとなっています。寺域内には南大門・金堂・講堂などが南北に直線的に配置され、その南西部に塔(とう)があり、現在でもこの塔跡には基壇の高まりとともに巨大な礎石(そせき)[6]が遺されています。昭和から令和元年度までの発掘調査により、南大門・中門(ちゅうもん)・金堂・講堂・回廊(かいろう)・塔跡についてはその様相を概ね把握できていますが、今後の史跡整備に向けて必要となる詳細な情報が得られているわけではありません。また、鐘楼(しょうろう)・経蔵(きょうぞう)についてはその位置すら把握できておらず、僧房についても根拠となる判断材料を十分に得ていないなど、事前に明らかにしておく事柄が多く残されています。

なお、寺域外の北側に展開する国分寺北遺跡(こくぶんじきた)や東赤土遺跡(ひがしあかつち)において、豊川西部土地区画整理事業に伴い実施した発掘調査では、三河国分寺が存続した頃の建物跡や各種遺物が出土しており、寺域周辺にも国分寺の維持・経営に関係したとみられる何らかの付属施設が広がっていたことが明らかになっています。

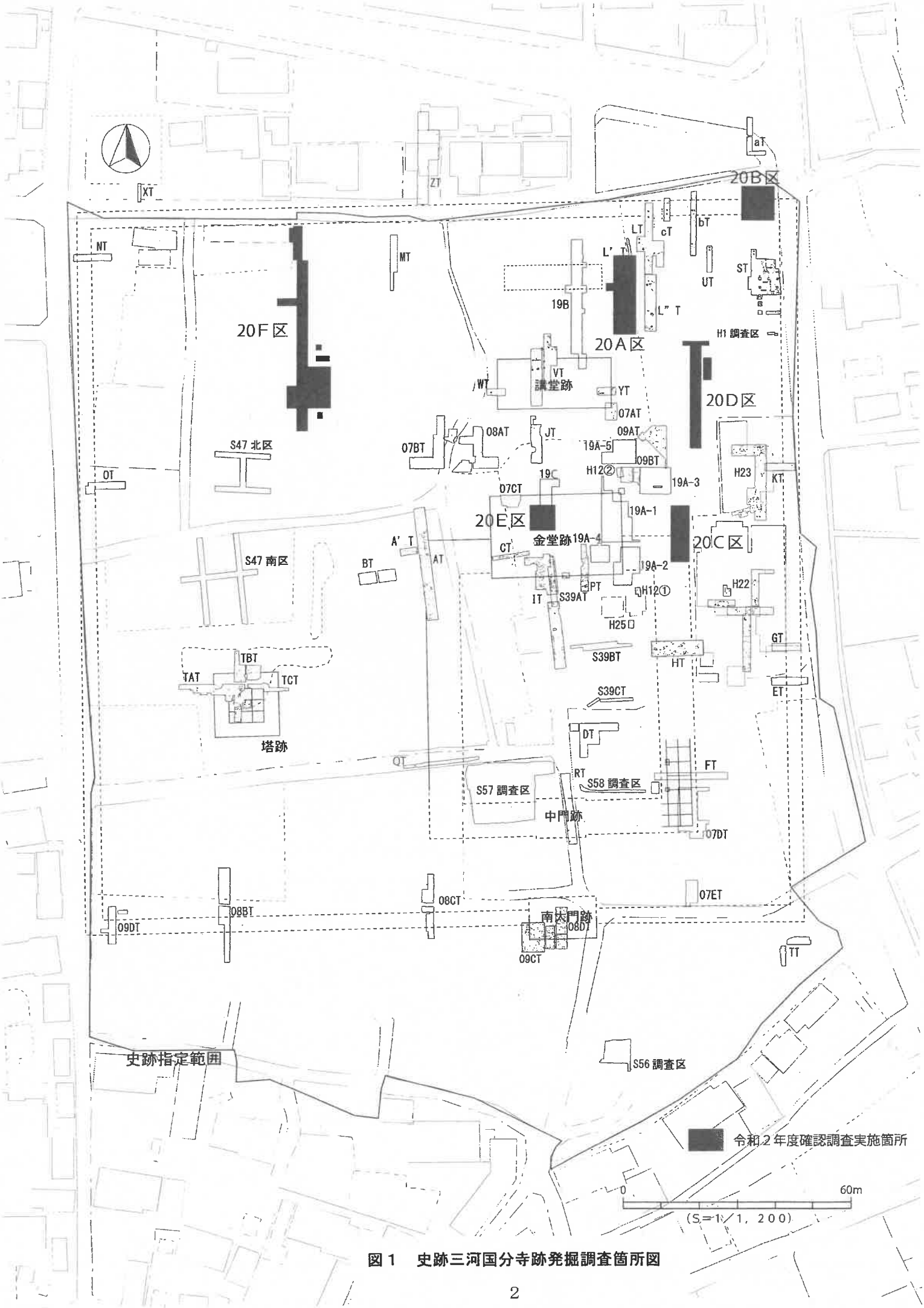


図１　史跡三河国分寺跡発掘調査箇所図

３　令和２年度の発掘調査概要

（１）20Ａ区（講堂跡北東調査区）

令和元年度の発掘調査において、講堂跡北側にて僧房跡と想定される大型の掘立柱建物（ほったてばしらたてもの）跡の柱穴の一部を確認しており、この建物の規模を把握する目的で、昨年度の 19Ｂ区の東側に設定した調査区になります。残念ながら、目的としていた掘立柱建物跡の検出には至らず、この建物跡の規模は当初の想定より小さなものになると判断され、僧房跡であると想定できる可能性が低くなりました。なお、この建物跡の規模や性格については、次年度以降の調査にて追求する予定です。

本調査区では、10 世紀中頃の大型の廃棄土坑（はいきどこう）を検出しており、ここから古瓦や平安時代の土器のほか、奈良時代に製作された奈良三彩陶器（ならさんさいとうき）[7]の火舎（かしゃ）[8]の破片が出土しました。奈良三彩陶器の出土は豊川市内では初めてのことで、今回の調査の中で大きな発見となりました。

【参考】図２　市道遺跡（豊橋市）出土の須恵器火舎

愛知県 2010『愛知県史　資料編４　考古４　飛鳥～平安』より

（２）20Ｂ区（伽藍北東隅部調査区）

本調査区は、国分寺の周囲を囲んでいた築地塀跡を確認することを目的に設定しましたが、後世の掘削のために目的としていた築地塀の痕跡は遺されていませんでした。しかしながら、築地塀を建築する際に掘られた溝（正確には、古代の段階で埋没した築地塀に伴う溝を中世に掘り返した溝）を確認することができました。

（３）20Ｃ区（北面回廊跡調査区）

北面回廊の位置や規模を確認する目的で設定した調査区ですが、近世以降に掘られた溝や土坑の影響により回廊跡の痕跡は全く遺されていませんでした。当初の目的を果たせなかった調査区ですが、奈良時代に金堂跡の基壇を造成するための土を採掘したとみられる大型の土坑の一部を検出しています。

（４）20Ｄ区（講堂跡東側調査区）

本調査区では、これまでの一連の発掘調査で確認できていない鐘楼・経蔵の検出を目的としていました。残念ながら、建物跡を確認するには至りませんでしたが、瓦を多量に含む奈

良時代の土坑を検出しています。土坑内における瓦の出土状況より、多量の瓦は北もしくは西方向から投げ込まれたことが観察され、近くに建てられていた建物が何らかの理由で倒壊したために廃棄されたものではないかと想定しています。次年度以降は、この調査区の北側に調査区を設定し、建物跡の有無を確認する予定です。

（５）20Ｅ区（金堂跡調査区）

かつて曹洞宗国分寺の本堂が建てられていた建物基壇について、令和元年度にこの基壇土の調査を行ったところ、奈良時代の国分寺金堂基壇を改変したうえで再利用したものであることが明らかとなりました。この調査結果を受け、場合によれば基壇土上面に奈良時代の国分寺金堂跡の建物の痕跡が遺されているのではないか、ということが想定されたため発掘調査を行いました。調査の結果、金堂跡の礎石が据えられていたと推定される痕跡を１箇所で確認しましたが、本尊（ほんぞん）を安置した須弥壇（しゅみだん）や建物の規模を想定するための判断材料は得ることができませんでした。

（６）20Ｆ区（塔跡北側調査区）

近年、各地の国分寺跡の発掘調査が進み、金堂や講堂といった主要建物以外にも伽藍地内に何らかの建物が建てられていたことが判明しています。そのような成果を踏まえ、三河国

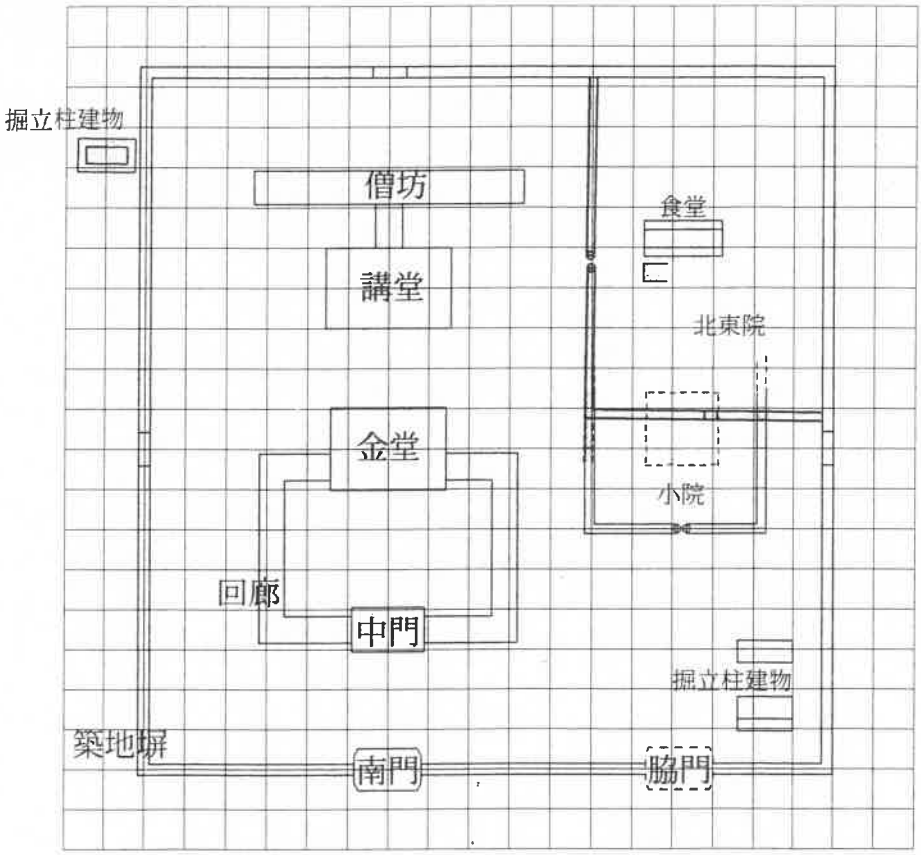
図３ 塔跡北側調査区の遺構概略図

分寺でも塔跡北側に広がる空閑地内に何らかの施設が存在する可能性が考えられたため、調査区を設定しました（図３）。調査の結果、調査区内では建物跡は確認できませんでしたが、伽藍地の北西を区画していたとみられる奈良時代の溝を２条検出しました。

この２条の溝はどちらも南北方向に並行に掘られており、出土した遺物の時期にも相違がみられないことから、その性格として上土塀(9)もしくは築地塀を建設する際の土採りの痕跡（塀の建設後には雨落ち溝として機能）で、２条の溝の間には土塀が存在したことが想定されます。なお、この２条の溝は調査区の中間あたりで途切れる箇所や、幅が極端に狭くなっている所があり、ここに門の痕跡は確認できていませんが、東側に存在する講堂跡に通じる出入り口が設けられていた可能性も考えられます。その他、塀との関係は判然としませんが、これらの溝の間において南北に続く大型の柱穴列を検出しています。次年度以降の調査では、この２条の溝の南限を追求するとともに、塀で囲われていたとみられるこの空間内における建物遺構の確認を行っていく予定です。

４　まとめ

令和２年度の発掘調査を振り返ると、当初の目的を達成できた調査区はわずかですが、奈良三彩陶器の出土や塔跡北側における区画施設の確認は非常に大きな成果といえます。



鈴鹿市 2017 『史跡　伊勢国分寺跡－遺構編－』より

図４　伊勢国分寺跡伽藍配置図（縮尺 2,000 分の 1）

国分寺伽藍地内部における区画施設の調査事例は、鈴鹿市に所在する伊勢国分寺跡での確認がこれまでに唯一といえるもので（図４）、今年度の調査で塔跡北側にて検出した成果はこれに次ぐ貴重な発見と位置付けられます。次年度以降、伊勢国分寺跡の調査例を参考にこの区画内における建物遺構等を追求していきたいと思います。

（１） **伽藍**・・南大門、中門、金堂、塔といった寺院の主要建物の総称
（２） **基壇**・・建物がのる土台（土壇）のことで、不同沈下を防ぐため堅固に土が積まれ、湿気防止のため周囲より一段高く築かれる
（３） **基壇外装**・・基壇土の流失を防ぐとともに、基壇の荘厳化を図るため基壇周囲に施した壁状の構造物。石や塼、瓦、木材を用いる例がある
（４） **掘立柱建物**・・地面に掘った穴に柱の根元を埋め、柱の周囲を土で充てんした構造からなる建物
（５） **築地塀**・・土を堅固に積み上げ造り上げた壁体の上部に屋根（瓦）を設けた構造の塀
（６） **礎石**・・礎石建物の柱を載せる土台となる石のこと
（７） **奈良三彩陶器**・・主に奈良時代に唐三彩を模して日本で製作された陶器で、器表に白、緑、褐色の釉を施したもの。緑釉のみを施したものや、白と緑釉の二彩などもみられるが、一般的にこれらを総称して奈良三彩と呼ぶ
（８） **火舎**・・香を焚くための香炉の一種
（９） **上土塀**・・土を堅固に積み上げ造り上げた壁体の上部に板を並べ、さらにその上部に土を載せた構造の塀

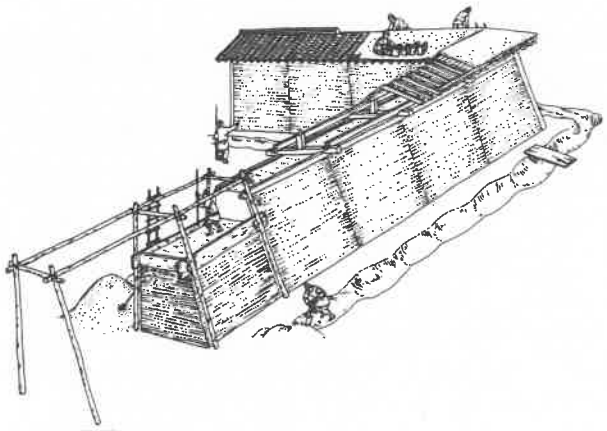


図５ 築地塀の造営作業想像図

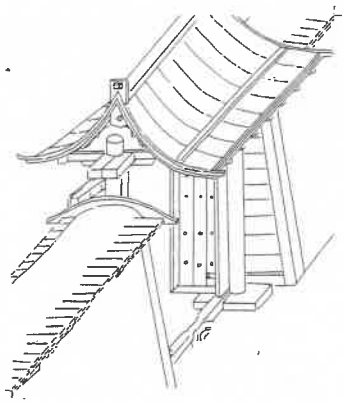


図６ 『西行物語絵巻』にみえる上土塀

図５、６ともに
独立行政法人 文化財研究所 奈良文化財研究所 2003
『古代の官衙遺跡 Ⅰ 遺構編』より

三河国分尼寺跡史跡公園のご案内

三河国分寺跡の北東約 300mの場所に三河国分尼寺跡史跡公園があります。中門・回廊の一部の建物を復元し、三河国分寺・尼寺跡、三河国府跡、船山第１号墳などの出土品を展示する三河天平の里資料館を併設しています。三河国分寺塔跡木製基壇の模型の展示もあり、ボランティアガイドによる説明も随時受け付けています。ぜひ、お立ち寄り下さい。

住　所：豊川市八幡町忍地 127－１　　開館時間：午前９時から午後５時まで
休館日：毎週火曜日・国民の祝日の翌日・年末年始　　入館料：無料